

TAMC

Bulletin of the Tokyo Amateur Magicians Club

会 報

令和5年6月号

June. 2023

主要内容（令和5年5月）

第1例会 休会

第2例会 会員発表：森田 晃君 池内 和彦君 田中 雅康君 氣賀 康夫君

土曜研修 休会（家族会リハーサル）

家族会マジック発表会

連絡報告

- ・家族会に向けて
- ・プロジェクター更新
- ・TAMC ホームページ TOP ページに外部リンク設置



第18回家族会マジック発表会後の懇親会

令和5年（2023）7月の活動予定

第一例会 : 7月 6日（木）18：00～20：00 田中 田村町 ビル 会議室 貸会議室5C
第二例会 : 7月 20日（木）18：00～20：00 田中 田村町 ビル 会議室 貸会議室5C
土曜研修 : 7月 15日（土）13：30～17：30 阿佐谷地域区民センター 第4集会室
講師：田澤 利明 君 他

令和5年(2023年)5月の活動記録

◆ 第1例会 休会

- ◆ 第2例会 5月18日(木) 18:00~20:00
司会: 神辺 貴昭 記録: 山口 尚孝 出席者 31名 +Zoom参加者2名

2023年5月18日(木) Zoom 例会のLIVE記録 <https://youtu.be/5TIOjqR8ULg>

1. 交流の時間

2. 会員発表

- 1) 森田 晃 君 ラフ&スムーズ加工されているデッキ
- 2) 池内 和彦 君 TAMC会員と私
- 3) 田中 雅康 君 家族会演技の実演 「時代に合わせて・・・」ほか
- 4) 氣賀 康夫 君 第一講 フォールスカットの応用マジック

3. 連絡報告

- 1) 村上大会委員長 家族会に向けて
- 2) 梶田幹事長 プロジェクター更新
- 3) 田澤情報管理委員会副委員長 TAMC ホームページ TOP ページに外部リンク設置

◆ 家族会マジック発表会&リハーサル

1. リハーサル 5月13日(土) 9:10~16:30 杉並区永福和泉地域区民センター
2. 家族会マジック発表会 5月28日(日) 12:00分~16:00 アルカディア市ヶ谷(私学会館)

会員の発表

第2例会(5月18日)

◆ ラフ&スムーズ加工されているデッキ

森田 晃 君

01. (K21-34) インビジブル・カード(自作)

客に(見えない)架空のデッキを渡して好きなカードを1枚裏向きにして貰うと、(見える)本物のデッキの中で客の好きなカードだけが裏向きになっている。20世紀初頭には存在した有名なデッキ。昭和48年の例会で石川喜一さんが発表した。ダイヤとクラブ、ハートとスペードの2枚の数の和が13になるペア26組を、ラフ加工で背中合わせに付着させたもの。片側は全部が奇数で、他方は全部が偶数になっているので、これを利用して客のカードを探し出すことができる。



02. (A17-49) ブレイン・ウエーブ・デッキ(自作)

客に好きなカードを1枚云って貰ってからデッキを裏向きに開くと、客の云ったカードだけが表向きになっていて、しかも裏の色がこのカードだけ他とは異なっている。原作者はダイ・バーノ

ン。ダイヤとクラブ、ハートとスペードの2枚の数の和が14になるペア26組を、ラフ加工で表面同志を付着させたデッキ。Aceと7とKingの裏面に密かに点けてあるドットで客のカードを探ることが出来る。全部が赤裏、または全部が青裏のデッキに見えるようなケースに入れてある。このデッキで「インビジブル・カード」を行うと、デッキの中で客のカードが1枚だけ表向きになっていて、しかも そのカードだけ裏の色が異なるというマジックになる。

ラフ&スムーズ液について（粗面液）：昭和50年頃の先輩は松脂をアルコールで溶いて自分で作っていたが、平成になって液がマジックショップで売られるようになった。現在では固形の品が手に入るので便利である

03. 超不思議トランプ（DP GROUP社製のインビジブル・デッキ）PREDICTION
ケースに入ったデッキを取り出して、客に好きなカードの名前を1つ云って貰う。そして「客が指定するカードは私には分かっていたので、それを1枚事前に裏向きにしておきました」と云って、デッキをケースから出て表向きに開くと1枚だけ裏向きのカードがある。そのカードの表を見ると、客が覚えたと言ったカードである。自作ではないのでラフ加工の仕上がりが綺麗。

04. (A02-08) 平田旭人のカード当て (A) (自作)

私は時間を超えて旅をすることが出来ます。これから5分ほど先の世界へ行って お客様が選ぶカードを見て来ます」と云って目をつぶる。そして目を開いたら1枚のカードを選び出して客には見せずに裏面にマジックでX印を付けて、デッキの中に戻



してシャフルする。そしてデッキを表向きに持って1枚ずつテーブルに置いて行って、客に好きなカードを選んで貰う。客が選んだカードの裏面を見ると、X印が書いてある。演者が予言したカードと云うことになる。Back to the Futureと云う題名で平成10年頃にTVに放映された作品。

05. (A02-09) 平田旭人のカード当て (B) (自作)

客Aが検めた普通のデッキの中から演者が1枚のカードを適当に選んで抜き出して、その裏面にマジックインキで大きなX印を書く。そして表面を見ないでデッキの中に戻して、客Aにシャフルして貰ってからカードケースの中に入れる。そうしたら客Aが指名する客Bに好きなカードの名前を云って貰って、ケースの中から客Bが云ったカードを探し出すと、その裏面に演者が書いたX印が書いてある。平成10年頃にTVに放映された作品。

【参考写真】

インビジブル・デッキ



ブレイン・ウェーブ・デッキ



超不思議トランプ



平田極人のカード当て (A)



平田極人のカード当て (B)



◆ TAMC会員と私

池内 和彦 君

終戦の昭和20年の生まれです。5月21日で78歳となります。TAMCでは同日誕生日の人は、高橋雅洋さん(68歳)、白鳥勝彦さん(79歳)、三好勲さん(80歳)。発表担当として「TAMC会員と私」のテーマでお話をします。



①山本玄一さん(89歳)の指導するマジック教室に参加してから推薦を受けてTAMCには2006年1月に入会しました。同期入会者には梶田明宏さん(65歳)、鈴木真弓さん(75歳)、佐藤和也さん(56歳)がおります。TAMCに入会してから担当した委員会は、総務、研修、ボランティア、会計、大会委員会等に所属して活動をしていました。

②天野博光さんは神田明神前であま酒の販売業をしている創業180年の6代目社長でした。元TAMCの会員でありました。天野博光さんと30年前に知り合い、それが縁で神田祭には毎回参加しております。今年も5月14日に開催されましたので神田祭の神輿宮入に参加してきました。以前、山本玄一さん、蔵原克治さん、膳場昭さん、鈴木真弓さんが私が参加する神田祭を見に来てくれました。神田祭は大阪の天神祭、京都の祇園祭とともに日本三大祭として呼ばれております。尚、マジックでロープとシルクを使用した演目に「神田祭」があります。石崎健治さん(75歳)からは松旭齋一門に伝わる古典的なやり方であると由来について教えて頂きました。柏木直也さん(63歳)からは関西では「お婆さんの首飾り」と呼ばれていると教えて頂きました。

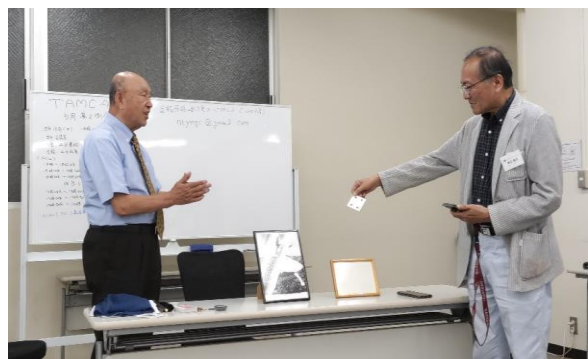


③川崎利秋さん(98歳)からシルク演技の指導を学士会館で個人指導を受けたことがありました。その時に長寿の健康について教えて頂きました。食事はよく噛むこと、目標を定めること、本を読んで覚えて記憶すること。そしてよく歩くこと。これは毎日6000歩以上歩くことを目標に行動をしています。この新橋の例会会場に来るときも都営地下鉄三田線で神保町や大手町で下車してから歩くことをしております。その他には日記を書くこと。これは毎日ブログとして「つれづれなるままに」を記述しております。もう6000日となり、17年目を迎えております。ブログの閲覧数が630万回となりました。白鳥勝彦さんがテレビの「ぶらり途中下車」に出演する切っ掛けが、日本テレビの関係者がブログ「つれづれなるままに」を閲覧したと聞いております。またTAMCに関するゲスト出演や会員のエピソードもたくさん掲載しています。情報管理委員会では、TAMCのホームページに「つれづれなるままに」を外部リンクとして掲載して頂いております。

- ④小永井暹さん（97歳）から「袋たまご」を教えてくださいました。5月28日のTAMCマジック発表会で披露します。小永井暹さんは趣味が豪華客船で世界中の旅をすることでした。その時に女流講談師の日向ひまわりさんと知り合い演芸場に出演する時などは観覧を続けておりました。私が豊島区で文化講演会を主宰していた時に日向ひまわりさんを講師として招聘をした時にも、小永井暹さんは平塚の自宅から参加して頂き、懇親会で「袋たまご」を披露してくれました。
- ⑤田中雅康さん（88歳）はとてもユーモアのある方です。ペンネームを相良武雄と書いてアイラブユーと読むそうです。アインシュタインのお話を聞きました。残業をさせない、早く帰るように勧める人であり、常に「早退（相対）せい」と言っていた人。面白いので洒落はマジック演技にも生かせると考えて各演芸場や浅草の東洋館にはよく通ってネタを集めております。マジックを披露するときに観客とコミュニケーションをとるために活用します。
- ⑥佐々木節夫さん（61歳）は武蔵野市立第三中学校の同窓生でした。同窓会の懇親会で二人がマジック披露をしたことでその時に中学校の同窓生であることが判明しました。
- ⑦柏木直也さん（62歳）はお医者さんです。ある時、睡眠不足の悩みを相談したところ、「夜の10時から深夜の2時の間が睡眠のゴールデンタイムであるのでその時間帯にしっかりと熟睡していれば短時間でも大丈夫である」と教えてくださいました。その話を聞いてから悩みはなくなり、朝早く目が覚めても、起きてパソコンに向かう時間としております。
- ⑧森田晃さん（84歳）は、マジック発表会に出演をするときに演題を決めてくれたり演技指導を丁寧に沢山してくれます。秋のマジック大会には森田晃さんの考案された作品を観客を巻き込んで楽しく演じる予定です。
- ⑨氣賀康夫さん（86歳）は、奇術研究家として活躍されている著名人であります。17年前にTAMCに入会した時にQRコード入りの名刺をお渡ししました。その時はユビキタス社会がスタートした頃でした。その後、QRコード入りのマジックを氣賀康夫さんに創作して頂きました。本日はその演目を披露させていただきます。

◎「ヘップバーンの予言」について披露しました。

お客様役は神辺貴明さんをお願いしました。トランプカードから一枚選んでもらい、伏せておきます。ヘップバーンはとても魅力的な女優ですが、予知能力の優れた人であると言って、客役にヘップバーンの写真にスマホのQRコードアプリで撮影してもらおうと「予言貴方が選んだカードは〇〇です。予言者 オードリーヘップバーン」と表示されます。選んだカードをひっくり返すと見事ピッタリ一致しているオリジナルマジックです



TAMCには素晴らしく優秀な会員が多くおります。

今まで私はいくつかの趣味を本気でやってきた。その経験から、何でも10年間くらい真面目にやれば、いわゆる、「守・破・離」の守がかなり身につく。そうなればさらに一步進めると自分流の何かが生み出せそうになると思う（生意気?）。ここまではひたすら辛抱だろう。

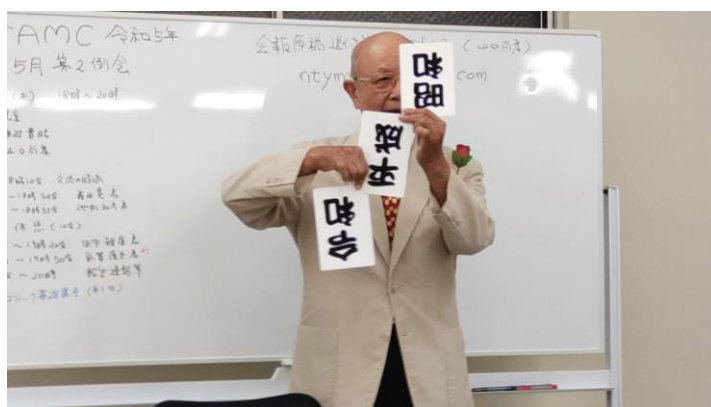


このような捉え方をした上で私のマジックをみると、始めてちょうど5年が経つがマジックの何たるかがわからない。今は専ら先輩のマジックを見て、真似て、学ぶ時期である。さて、誕生月で指名された5月第2例会の発表では5月28日開催の家族会の発表に備えたりハーサルのつもりで臨んだ。マジックの出し物や演じ方はすべて田澤利明さんに依るものである。いわば田澤利明さんのマジックを手本としてこれを真似て演ずるのである。言ってしまうとこれだけだが上手く演ずるのは容易ではない。演じたものは次の5つ。

第1は細く短い（約30cm）棒の先に布を巻いたものを左手で持って、右手のライターからこの布に火をつける。火が燃えているとき瞬時に棒を右手に持ち替え、左手で火を消す。消した後に赤いバラの花がこの棒にさいている。

第2はティッシュペーパー1枚がマスクに変化するもの。

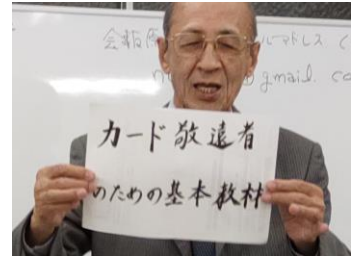
第3はマジックの古典に属するもので、3枚のカード（このときは昭和、平成、令和の文字が書いてあるカード）を使って、それらが3枚とも昭和のカードであることを示したり、3枚とも平成のカードであることを示したり、3枚とも令和のカードであることを示すもの。



第4はだまし絵（色紙大の厚紙に若い美女と、これを上下逆さにすると老婆になる絵）を使って客におもしろく話しかけるもの。

第5は少々事前準備が必要となる。まず、紙テープを一巻を取り出し、芯から上を少しずつ伸ばしていき、紙コップのような形に仕上げる。他方、透明の二重コップ（手品用）にミルクをほぼ一杯入れておく。この後、左手に紙コップを持ち、右手でミルクを注ぐ。程よいところでミルクの注入を止める。（客は紙コップにミルクが入っていると思っている）。紙コップのミルクを客に浴びせるようにするがミルクは出てこない（二重コップの仕掛けがあるから）。続いて紙コップを目線の高さに持ち上げ、その底（紙テープの芯）を下に引っ張る。すると紙コップはスルスルと解けていく。これらのマジックの演じ方について森田晃さんと濱谷堅蔵さんから有益なアドバイスをいただき感謝している。最後に、田澤利明さん、今回も多大なご教示、お世話などなど誠にありがとうございました。

総務委員会の要請に従い、このたび、表記の講座を行 ことに決定した。全10回程度になる予定であり、今回がその第一回である。技法の解説記事と、解説動画はBOXにアップしてあるのでご参照いただきたい。そして、本日実演の応用マジックについてはその解説を別添する。その動画も田澤会員が編集して提供くださる予定になっている。なお、本日のテーマは「False Cut」であるが、別途実



演で活用してみた Marked Deck(Reader Deck)についても説明をしておく。奇術用具店で提供している Marked Deck については筆者も何種類か入手したことがあるが、それは全て優れた巧妙なデザインの印刷でできていた。筆者が30歳までくらいまではよく活用したが、歳をとり40歳を越えると老眼が始まり、これらの商品は実演に役立たない。これは中年以降の奇術愛好家がみな等しく実感するところである。そこで筆者は老眼でもよく見える手製の Marked Deck を持ちるようにしている。これはおなじみの Bicycle Rider Back の中央上下にある自転車の左右にある色の濃い半円形のところに、先端が鋭く尖ったカッターで色の部分を擦り取り、白く見えるように自主加工するという方法である。この Marked Deck の特徴はマークが大きくよく見えるにもかかわらず、おなじみの裏模様のため仕掛けがあると観客が気づかないという点にある。マークと数字の表記法例については以下の図を参照願いたい。

マークの形

<	+	v	^
◇	♣	♥	♠

数字の形

1	{	}	△	∩	b	7
A	2	3	4	5	6	7
x	q	+	J	q	f	
8	9	10	J	Q	K	

例

Marked Deck (Reader Deck)の活用について

<始めに>

本解説の目的は「マーケットデッキ(リーダーデッキ)を見直そう。」という趣旨である。トランプ(Playing Cards)を用いた奇術は、奇術の中で最も研究が進んでいる分野である。そして、いつからか、巧妙な種が一つ発明された。それを Marked Deck または Reader Deck と呼ぶ。それはどういう種かという、普通にゲームで使うカードのように一組のカードの裏模様が同一であるように見えるが、実は裏模様に細工がしてあり、その細工を活用するとどのカードでもその裏からそれが何のカードがわかるという代物である。この奇術専用のカードは古くから奇術材料店のベストセラーの一つであった。

奇術店でこれを見て、その巧妙さに魅せられて衝動買いをする人が多いが、それを有効に使っている人は稀である。一部の購入者は「これは面白い」と誰かにそれを見せようとする。しかし、多くの場合、正しい使い方を知らないために、誤った使い方をする。そうすると、すぐに種が露見し、二度とそれを使うことができない状態になる。その結果、折角のカードは引き出しの奥に仕舞い込まれたままとなる。

ところで、これとは別に、もう一つ無視できない理由がある。それは20歳～30歳ころ見えていたマーケットデッキの印が、年齢とともに老眼が進行すると、よく見えなくなるという問題である。これは致命的である。一般論として40歳を越えると老眼が進行し、市販のマーケットデッキは使えない状態になる。

だからと言って、マーケットデッキを使う場面だけ老眼鏡をかけるのは不自然であり、筆者のように近視があるが近視の眼鏡をはずせば新聞が読めるという場合でも、演技のときに急に眼鏡をはずすのは不自然である。この老眼には、唯一、対策がある。筆者がお勧めするのは自分でちょうどいいと思うマーケットデッキを手作製する方法である。

筆者愛用のマーケットデッキは最もポピュラーな Bicycle の Rider Back でから手作成したものである。マークの位置は裏面中央の「自転車乗り」の絵の左右である。これについては詳しく後述する。

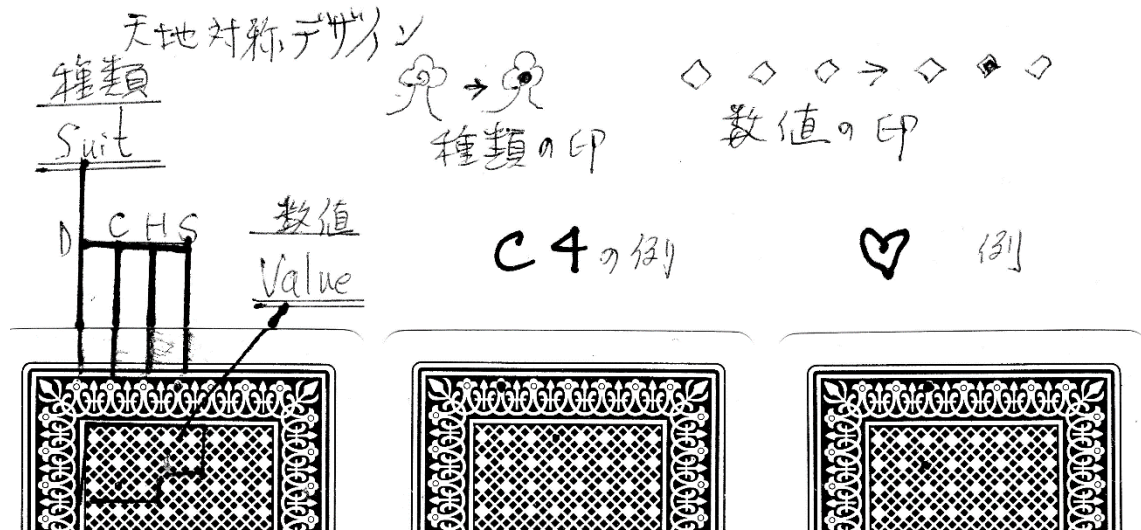
マーケットデッキは注意深く上手に使うと、他の方法ではできないような素晴らしい効果的な奇術が可能になることが知られている。このことに気づいている人は意外に少ないようだ。

そこで、以下に Marked Deck の誤った使い方、正しい使い方を明らかにして、さらに「これは素晴らしい！」という効果的な奇術の例をもご紹介したい。読者がこの種の本当の価値を再発見し、それを使う奇術をレパートリーに加えることを期待したい。

<Marked Deck の仕掛け>

Marked Deck の裏模様は、観客が見て一見すべて同一のデザインに見える必要がある。しかし、演者が見ると一瞬でそれが何のカードかがわかるというものでなければならない。実はこの二つの要素は明らかに矛盾する。言い換えると、演者にわかりやすいようにしようとするれば、観客にも気づかれやすくなり、観客に気づかれにくいようにすれば、演者のもわかりにくいものになる。しかし、実は、観客は、普通カードというものは裏が全部同じデザインであるという先入感を持っている。そのおかげで、上記の要件を満たすデザインが可能になるということになる。市販のマーケットデッキは例外なく、印は目立たない微細なところにほどこされている。次にその一つの例をお示しておく。

マークトデッキの例



<商品としての Marked Deck と手製の Marked Deck>

商品として売られている種はこのように巧妙なデザインになっている。ただし、それと同じように見える本物のカードは売られていない。そこで、普通にゲームに使われるカードを加工して Marked Deck を手作製するというのは二重の意味で賢い作戦である。

Marked Deck を用いる奇術の例として、Marked Deck と普通のカードとの二組のカードを使うものがあるが、そのような場合、種は市販の Marker Deck！普通のカードは平凡な Bicycle！という組み合わせはどう考えても無頓着すぎだと言わざるを得ない。そのような組み合わせではそれだけで怪しい奇術になってしまうからである。だから、このような場合には、市販の種を使うのなら、普通のカードもあまり見かけないものを使うのでなければならない。また、普通のカードが Bicycle なら、種カードも Bicycle で手製のものを使うのが思慮深い配慮である。

<Marked Deck でやってはいけない使い方>

1. 一番避けなければならないのは、それを使って奇術を演ずる際に、演者が種カードの裏をジロジロと見ていることが観客の目から見え見えになる事態である。まず裏模様をジロジロ見るのは絶対禁物である。
2. これと同じように絶対やってはいけないのは演者が長時間カードの裏を凝視しつづけることである。
3. また、演者がそれまでくつろいで普通に話していたのに、カードの裏を確認する段階に至ったときだけ突然固まってしまい、全く無口になってしまうなどというも具合が悪い。これらのやってはいけないことを回避するための方法は次項で述べる。

<裏模様の確認のための正しい方法>

1. 観客にそれと気づかれないように裏模様を確認するコツがいくつかある。まず、裏模様の該当箇所を見るのは一目でいように多少の練習は必要である。その時間は短ければ短いほどよい。
2. ただし、逆に、工夫によってカードの裏を見る時間を稼ぐ方法がある。例えば、一枚のカードを観客に選ばせ

て、それを再び一組に戻すだけで、戻す瞬間に裏を確認するのはなかなか難しい。しかし、カードを選ばせるときに一組をテーブルに带状に広げ、観客に一枚を指ささせ、術者がそれをテーブルに押し出して、それを指さして、「では、いまお客様が自由にお選びになったこのカードをご覧ください。」と言うというような手続きを踏めば、裏を見る時間が大幅に増えることになる。このような手順構成上の工夫が問題を解決してくれる場合が多い。

3. 手順を進める上で話を上手に活用するのは巧妙な作戦である。例えば、選ばれたカードをすぐ一組に戻さず、テーブルの上に一旦裏向きに置いてもらい、そこで「お選びのカードはジョーカーではありませんね。すると、それは赤か黒のカードということになります。私にはそれが赤か黒かを何か知る方法がありません。」などという台詞を用いれば、カードを見る時間を大幅に稼ぐことができる。台詞として自然なものであれば、「先日この奇術をやろうとしたら、お客様がご年配で、ご覧になったカードの名前をお忘れになってしまいました。今日のお客様はお若いので、そういうことはないと思いますが、念のためカードの名前を確実に覚えておいてください。」などと話すのもよい。

<Marked Deck で絶対にやってはいけない奇術>

1. これだけはやってはいけない奇術は、一組からカードを一枚選ばせて、「そのカードはクラブの7でしょう。」などと直接的にカードを当てて見せるという奇術である。Marked Deck を奇術店で買い求め、一回やってみて種がばれて、それから二度と演じようとしなくなる人のほとんどがこの誤りを犯している。このような露骨な演技をすれば、それまで何もカードについて疑いを持っていなかった観客でも「裏が怪しいなあ！」と考え始めるのは当然である。裏の模様の仕掛けがわからなくても、なにか裏に仕掛けがあるに違いないと考えることになるだろう。
2. Marked Deck を使って奇術を演ずる場合はその活用法が直接的ではいけない。手順全体でその種の活用がカムフラージュされるように種を間接的に活用するように工夫しなければならない。
3. 最後に Marked Deck 活用の奇術のいい例ともう一つ筆者が構成した新しい手順をご紹介します。このような手順はいろいろ工夫が可能であろう。

不思議な一致 Mysterious Coincidence

効果：二組のカードを用意し、観客と術者が一組ずつを持ち、中から好きなカードをそれぞれ選ぶ。それを元に一組に戻し、カードをよく切り混ぜる。ここで、カードを交換し、交換した一組からそれぞれが最初に選んだカードを抜き出す。そして、再びカードを交換して元に戻し、各々自分の一組から先ほど選んだカードを探し出そうとするが、それがどうも見当たらない。そこで抜き出したカードを表にすると、それが何と同一カードであることがわかりびっくりする。

用具：使うのは Marked Deck 一組と普通のカード一組である。このときに Marked Deck が仮に Bicycle Rider Back の青で手製で作成したものである場合には、もう一方の普通のカードは同じ Rider Back の赤を使うのが適当である。

方法:

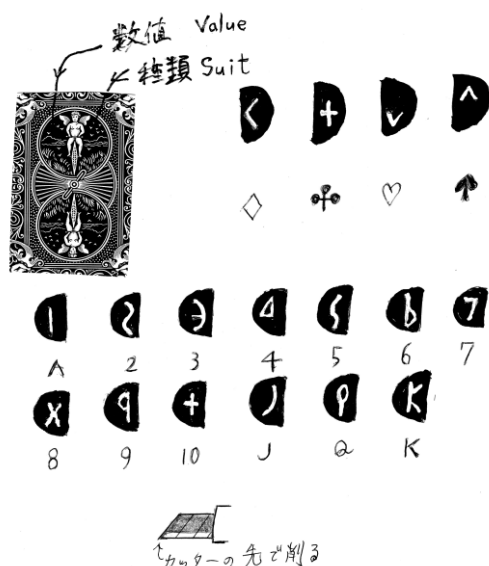
1. 二つのカードを取り出して、Marked Deck の方を観客に手渡し、術者は普通のカードを手にする。
2. お互いに自分のカードをよく切り混ぜる。
3. 次に、術者は自分のカードを自分の近くに右から左に帯状にカードを広げる。そして、観客に自分のカードを同じように広げるようお願いする。このとき観客の術者のようにスムーズにカードを広げることができないこともあるが、それはかまわない。時間を掛けてカードを広げるので十分である。
4. 二つのカードがそれぞれに前に左右に帯状に広がったら、術者は自分のカードの中から適当な一枚を選んで指で中央のラインの方に押し出す
5. そうしたら、観客にも同じ要領で自分の帯状のカードの中から適当なカードを指で中央のラインの方に押し出してもらう。
6. ここで「私も、お客様も、自分の一組の中から適当に一枚のカードをこのように選び出しました。それでは自分のカードを見て、それが何のカードかを確認することにいたしましょう。」と言う。その時間を活用して、術者は観客が押し出したカードの裏を見て、それが何であるかを確認し、それをしっかりと覚えておく。
7. 互いに自分が押し出したカードをめくってそれが何かを確かめるが、観客にはカードを忘れないようによく記憶するように念を押しておくのがよい。
8. 一方、術者は自分のカードを見る動作をするが、それが何かに注意を払う必要がない。それを覚えようとしないのが正解である。
9. 以上が終わったら、互いに選んだカードを元の一組に戻し、さらにそれをよく切り混ぜることにする。
10. 以上がこの手順の前半である。ここで、互いのカードを交換する
11. そうして、念のためさらに互いのカードを再び切り混ぜる。
12. 次に持っているカードの表を見て、最初に自分のカードから選んだカードを新たに抜き出すことにする。観客は見たのと同じカードを見つけてそれを取り出すだろう。それをテーブルに裏向きに置いてもらう。
13. 一方、術者は自分が見たカードと思わせながら、実は Marked Deck の種のおかげで知ることができた観客が選んだカードを何食わぬ顔で取り出してそれを裏向きにテーブルに置く。
14. 再び持っているカードを交換して、それを念のためよく切り混ぜる。
15. ここで、「それでは最初に選んだカードを抜き出してお手にお持ちください。私も同じことをします。」という。
16. 観客は自分の一組の中に選んだカードが見当たらないと言い出すであろう。そうしたら、「おかしいですね。不思議なことに私のカードも見当たりません。それではお選びのカードは何でしたか？」と聞く。聞いたら「えっ！本当ですか？私の選んだカードもそれだったのです。だからそれが見あたらないのは当然ですね。」と言いながら、テーブルの裏向きの一枚を表向きにする。観客も同じ動作を行う。するとお互いが最初に適当に選んだカードが不思議なことに同じカードであったことがわかりびっくりする。

Bicycle Rider Back で手製の Marked Deck を作る方法

筆者は老眼で市販の Marked Deck が使えなくなったときに、自分専用の Marked Deck を手作製することを考えた。たとえば、使うカードが青色の裏模様であれば、インクでペンを用いてマークをつけることはできる。しかし、使用していると摩擦で印が薄くなるという劣化現象が起こると思われたので、逆に印刷の青のところに新しいカ

ッターの尖った先端を用いて印を削り取るという方法を考案した。それならマークの劣化は起こらない。使用する印であるが、場所は隅などではなく、中央上下の自転車乗りのデザインの左右の半円形の部分を活用することにした。その印は以下に紹介するデザインである。

これは大変良く見える印であり、老眼でも全く問題がない。それでは観客に気付かれるのではないかと心配する人もあるかもしれないが、このカードはポピュラーなデザインであるから、よもやそれが Marked Deck であると誰しも疑わないものである。数枚を並べて比較すると違いがわかるかもしれないが、一枚を見ただけでは印があるように見えないような印になっている。老眼ではこの手製の Marked Deck が必需品である。



「三つの山」 (Three Heap Mystery)

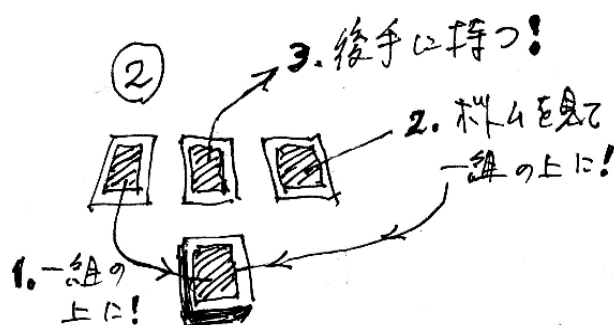
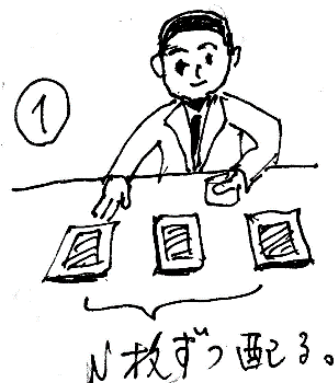
<解説> これは、古典的な奇術の演出を工夫して効果的なマジックに仕上げた新作である。

<効果> 一組のカードを用いる。観客が術者の指示に従い、三つの山を配る。次に、一つの山を一組の上にもどし、次の山のボトムカードを見て覚え、その山もそのまま一組の上に乗せる。そして、最後の山は後ろ手に持つ。そこで、術者が一組を受け取り、切り混ぜる。ここからは、観客が好きな枚数のカードをテーブルの上に出す。術者はそれを真似る。この動作を繰り返していき、観客のカードがなくなったら、そこで動作を終える。最後に、テーブルのカードの山のトップを表向きにすると、それは正に観客が見たカードである。

<方法>

1. この奇術は典型的な数理トリックである。上記の効果の項のとおり手順を進めると自然にできてしまう奇術である。それを手順の進め方の工夫で不思議な奇術に仕上げたのがこの作品である。
2. この奇術のためには用意はいらない。そこで、実演の前に一組のカードを観客に切らせるのがよい。

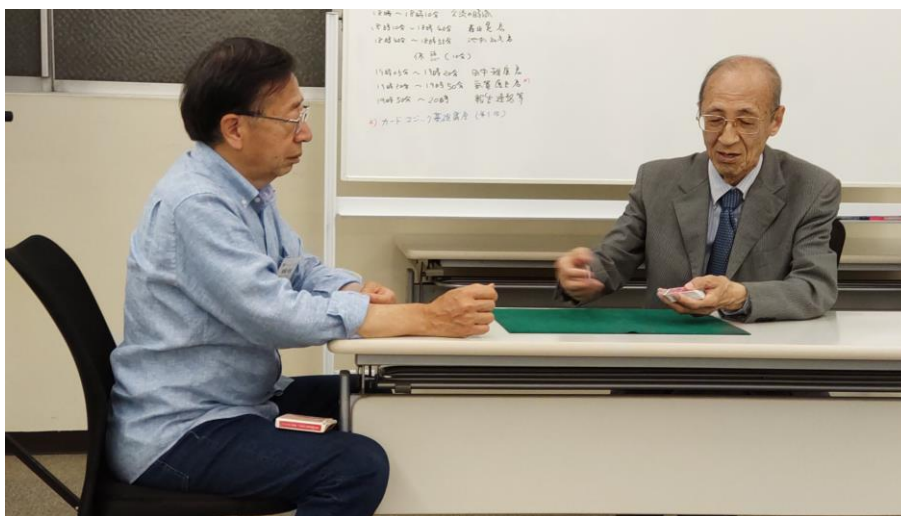
3. ここで術者は一組を受け取って手に持ち、上から一枚ずつ、カードを三つの山に配り始める。そして、三つの山が3枚ずつになったところで、その動作を中断し、観客に一組を手渡し「3人のプレイヤーがカードを手にする場合、ポーカーなら5枚ずつ、ブリッジなら13枚ずつ配りますが、ここでは配る枚数は何枚でもかまいません。お客様にお任せします。」といい、術者は後ろを向く。
4. 観客が配る動作を続けて、N枚の山が三つできたとしよう。ここで残る一組はテーブルの中央に置いてもらう。術者はこのNの値を知らない。(第1図) なお、このNは10~15枚くらいが適当である。
5. ここで術者は観客にここからの作業を指示する。
6. 最初は三つの山の一つを選び、それをシャフルしてもらい、そのまま一組の上にポンと乗せるだけである。
7. 次は残る山の一方を取りあげてシャフルしてもらい、そのボトムを見てそのカードの名前を覚えてもらい、それが終わったら裏向に戻して一組の上にポンと重ねてもらう。
8. 最後の山については、それをシャフルして観客に後ろ手に持ってもらう。(第2図)



9. ここまで来たら、術者は前を向くが、テーブルの上に一組があるので、それを手に取る。しかし、術者は観客が見たカードについての手がかりを持ち合わせないように思える。
10. ここで、術者は一組のカードに一回フォールカットを施す。
11. ここからが面白い。術者は一組の上から3枚のカードを取りテーブルに置き、観客も後ろ手の山から3枚のカードを取って同じようにその上に重ねてもらう。
12. 次に、「それではカードを出す動作をお客様にリードしていただくことにします。お手持ちのカードからお好きな枚数をテーブルのカードの上に置いてください。」とお願いする。そうしたら「私はお客様の真似をします。」と言い、同じ枚数のカードをその上に乗せる。ただし、このとき大切なことは術者が観客の動作を真似るとき、カードを一枚ずつ手に取ってテーブルの山に重ねていくことである。(第3図) 面倒だからといって、一度にカードを複数枚取ってはいけない。



13. ここからはこれと同じ動作を繰り返す。何回かこれを実行すると観客の後ろ手のカードがなくなる。ここで、この作業は終わりである。
14. 最後に、術者がテーブル山のトップの一枚を右手に取り、それを観客の前に置き、「先ほどご覧になったカードは何でしたか？」と質問する。(第4図)
15. 観客の前のカードを表向きにすると、それは正に、直前に見たカードそのものである。



家族会マジック発表会&リハーサル

- ◆ リハーサル 5月18日(木) 9:10~16:30 於: 杉並区永福和泉地域区民センター

5月28日(日)の本番に向けて発表者による演技リハーサルが行われました審査員の方々から厳しく的確なコメントをいただき、皆さん本番に向けて一生懸命取り組んでいました。

- ◆ 家族会マジック発表会 5月28日(日) 12:00~16:00 於: アルカディア市ヶ谷(私学会館)

発表会当日は天候に恵まれ、新型コロナウイルスがインフルエンザと同じ「5類」に引き下げられたこともあり、多くの方が会場にお見えになりました。発表会の後はアルカディア市ヶ谷(私学会館)6階の「阿蘇」で懇親会が開かれ、その後市ヶ谷駅前の「魚民」に移動し2次会で大いに盛り上がりました。





土屋会長より今回の家族会マジック発表会についてご寄稿いただきましたのでご紹介します。

TAMC 創立 90 周年記念
第 18 回家族会マジック発表会を振り返って

会長 土屋理義

出演者 34 名によるクローズアップ、サロンマジックの数々に感心させられました。道具を自ら制作してのオリジナルマジック、既存のマジックにひと工夫、二（ふた）工夫をした演技、演者のキャラクターを生かしたマジックなど、会員 40 才から 92 才までの熱演に、お越しいただいたお客様は、どの部屋においても、それぞれに充分楽しんでおられたと思います。リングやカードを用いたオーソドックスなマジック、数理的な魔法陣、紙玉やカップ&ボールのようなスライハンド、水物、鳩出し、さらにはカミソリや長い風船を飲みこんで、口から吐き出す危険術（？）まで、まさに TAMC ならではの、バラエティに富んだ不思議で楽しいマジックの連続、TAMC 会員のレベルの高さを、皆様にご披露出来た一日でした。



今回は入場券の配布を限定したこともあり、各部屋が一杯になり、休憩時間の部屋移動が少なく、じっくり見ていただいたことも良かったです。プログラムの見栄えも演技の内容も、従来よりレベルアップしました。大会委員のみならず、会員の多くの方々が裏方でサポートしていただき、洵にご苦労様でした。

秋には創立 90 周年記念の舞台が待っています。全力をあげて、大会を盛り上げていきましょう。



連絡報告事項

【プロジェクター更新】

例会で使用していた 2009 年購入のプロジェクターは部屋を暗くしないと映らないので、最新の機種に更新し部屋が明るくても良く映るようにしました。尚、古い機種は家庭でも使用可能なので、7月のオークションで希望者に譲りたいと思います。（梶田幹事長）

【TAMC ホームページ TOP ページに外部リンク設置】

tamc.site に、「[外部リンク](#)」増設

情報管理委員会（田澤利明）



「TAMC 会員のブログと投稿ページ」

池内和彦：[つれづれなるままに\(TAMC シリーズ\)](#)

いしけん（石崎健治）[ちいさいマジックのおうち](#)

マジックラビリンス・・・

氣賀康夫（[キングラム](#)、[楽しい図形パズル](#)、[神のマジック](#)、[氣賀カードマジックスクール](#)、[氣賀コインマジックスクール](#)）

土屋理義（[マジックの切手](#)、[マジックグッズ・コレクション](#)、[創作落語手品](#)）

故 坂本圭史（[トランプ（カード）の魅力](#)、[趣味としてのマジック](#)）

「マジックを始めよう！」、「世界のマジックを見る知る」

「マジシャン（プロ）とマジック関連組織団体」、「学生マジッククラブ」

「国内外の活動クラブ・活動団体」、「マジックバー」

【新刊のご紹介】

氣賀康夫君の新刊「カード・マジック 宝石箱」(¥2,800)が泉文堂から発売されました。

前作の「コイン・マジックへの誘い」と同様 QR コードからすぐに動画を見られる仕様となっています。カードマジックに興味がある方、これから始めてみようという方には必読の書となっておりますので、購入を検討されてみてはいかがでしょうか？

今後続編を執筆する予定があるそうなので、皆さま楽しみにしてお待ちください。



TAMC 会報
2023 年 6 月号
記録・編集 山口 尚孝